

会 議 録

内 容：平成 26 年度軽井沢町グランドデザイン像作成に伴う会議（第 4 回/全 14 回）

場 所：軽井沢町役場第 3・4 会議室

日 時：平成 26 年 5 月 26 日（月）13 時 30 分～17 時

出席者：軽井沢町（町長、横島、依田、森、遠藤、春原）

中村、udc（護、小野寺、辻）、小野寺事務所（上條）、アトリエ T-plus（南）

①今後のスケジュールについて、確認を行った。結果下記。

◆作業および作業スケジュールについて

- ・7 月 2、3 日で小野寺氏が富良野でイマイ氏と協議を行う。
 - ・11 月（完了時）は、グランドデザイン像を展示まで完了を厳守とする。10 月末に 100 年未来デザイン図が描き終わる予定だが、パネル化の期間も必要。スケジュール内にパネル化の期間も入れる事。
 - ・最終成果（パネル化）については、フレーム、紙質等についても検討する。
- 印刷業者にパネル化等の検討を行い、スケジュールに反映させる。
- ・委員に現状を報告する会を開催する。7 月が妥当。【了承・委員のスケジュールを調整】

②エリアデザインについて小野寺氏より説明があり、議論を行った。結果下記。

◆最終のまとめについて

- ・全体像（遠景）とスケッチ（近景、アイレベル）の組み合わせで表現する。
- ・全体像のベースは、模型を基本とする。模型写真をデジタル加工し、絵として表現する。

【了承】

デジタル加工→点景や遠景の山等を追加、まちなみイメージを表現、表現できない部分はぼかす。

模型→旧軽井沢地区 1：500、その他地区 1：1000 で作成する。

- ・スケッチについては、住民の教科書となる「まちなみイメージ」は必須である。
- ・50～100 年の大きな流れ（コンパクトタウン・持続可能なまち、省エネ等は）については全体の中に明確にうたわれている必要がある。

◆エリアデザインについて

【新軽井沢】

1. 芸術遊創プラザ周辺（矢ヶ崎公園）+ 2. 駅東口から大賀ホール+ 3. 国道 133 号（表通り）

○LRT について

- ・LRT について、浅野先生から「しなの鉄道」軌道敷の活用、旧駅舎の活用案を頂いて、修正案を作成。（浅野先生協議 5 月 20 日 UDC）
- しなの鉄道・軌道敷を活用すると小諸からの便が悪くなる。利害関係が関わってくるのでしなの鉄道に触れない方向とし、国道を利用する。駅は駅前に設置する。【了承】

→旧駅舎（現：軽井沢駅舎記念館）は、新しく造り替えたものである。駅の象徴性をつくるのであれば、駅前広場の中心に移設することも考えられる。【今後検討】

【追分】

1. 街道の街並み+ 2. 分去れ+ 3. クリエーターズ・コロニー

○街道の街並みについて

・50年～100年先を考えると、歴史街道として歩行者優先の「歩く街道」とする事も考えられる。

・街道の南側に別荘群が立地しており、街道の道を必ず利用する。自動車排除は難しいが、現在は通過交通の道になり自動車が多く危険である。

→居住者のみ通行可（通行許可制）や通行の時間制限、速度制限等、手法はいくらでもあまる。交通コントロールを表現する。【今後検討】

→活動等のソフトな部分を表現する場合は、人の行動を入れる等で工夫して表現する。

○クリエイターズ・コロニー

・油屋等は頑張っている。民間プロジェクトの支援は考慮する方向で進める。

【中軽井沢】

1. 街区と水路+ 2. 湯川+長倉公園+ 3. 国道146号（表通り）

○風土文化アカデミー（22世紀フォーラム）について

・くっつけテラス内にあるチャレンジショップを街中に持っていき、風土文化アカデミーの拠点にくっつけテラスに入れる事も考えられる。

・風土文化アカデミーにはカルチャー的な機能もある。場所は湯川沿いが良い。

→風土文化アカデミーの拠点は、活性化の引き金となる事を期待すると、駅に近い場所が良い。くっつけテラスとの連携も生まれやすい。

・今回のエリアデザインでは、現在ある都市計画（軽井沢町長期振興計画）とは違う事を前提とし、理想像を描く。しかし、場所や表現が具体的にになれば、反対意見が出てくる。表現方法には工夫が必要である。

→官に頼らない自立したまちづくり活動等を勉強する「風土自治」の考え方は、今後の地方自治体を考える上で重要なものであるため、一つの方向性として絵に表現する事は重要である。

→くっつけテラスや中軽井沢駅前と一体となった絵（スケッチ）の中に「風土文化アカデミー」を表現する。

・「風土文化アカデミー」を絵として表現する事は難しい。

→活動の様子を青空公園（建物一部を屋根を外した状態で）描く。

→演劇的に情景を表現する。「まちづくり劇場」

→季節カレンダーの様に、年間の活動を表現する。

→絵を描く時には、軽井沢のシンボルとなるものを入れる。（全エリア共通）

（エゾリス、コブシ、アカハラ、サクラ、等）

【表現方法（視覚化）については今後検討】

○街区について

- ・長期滞在者の昼間活動として「手習い」が出来る店舗を街区内に取り入れる。「手習いと味のまち」をコンセプトとする。
- ・公費をつぎ込んだだけで出来る案ではなく、中軽井沢駅～星野を繋ぐ民間が頑張る様な仕組みが必要である。
- ・20～30年後には建物の劣化により取り壊しになる建物が増える。思い切った提案を検討する。【今後検討】

【南軽井沢/南地区】

1. ユウスグオーラム（風の庭）+ 2. 発地市庭、植物園（山の庭） 3. 里山博覧エコミュージアム

○発地市庭、植物園（山の庭）

- ・発地市場は、軽井沢の食材を活用した食文化デザインの実験所としての機能も取り入れる事が出来れば良い。風土文化アカデミーの一つでもある。
- ・発地市場（直売所）の裏山の樹種については、進士先生にご意見を伺う。

【了承。7月3日東京にて協議予定】

○次回の協議について

- ・平成26年6月23日（月）とする。
- ・議題は

1) グランドデザイン

①仕様（描きこむ事物・施設）

2) エリアデザインの仕様

①コンセプトと内容

②各地区仕様（作画方法、全体図に描きこむ事物・施設、例示場所（再確認含む）、）

③例示場所イメージ図

3) 工程表（作業項目と日程）

4) 会議開催予定日程

○配布資料

1. 次第
2. 前回議事要旨（資料1）
3. エリアデザイン（案）の構成について（資料2）
4. エリアデザイン素案（旧軽井沢・新軽井沢、中軽井沢、南地区）（資料3）
5. 軽井沢LRT+サイクリングネットワーク図（資料4）
6. エリアデザイン鳥瞰図について（資料5）
7. 軽井沢モダンについて（資料6）
8. 平成26年度軽井沢町ランドデザイン像作成工程表（資料7）
9. 広報かるいざわ「都市デザイン室」報告（横島参与）

以上